

資料

1) 第6回「釧路川流域委員会」での意見に対する検討方針

第6回委員会における各委員の意見等の検討方針(案)

区分	各委員の意見等	検討方針
<p>釧路川流域の川づくりに向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 河川整備が強調された川づくりの印象を受けるが、釧路川は魚種こそ多いが魚の生息数が少ないので、魚数を増やすような生息環境を目指すべきではないか。 • 過去に行ってきたような蛇行した川を切り替える直線化工事は、今後行わないということで良いのか。 • 蛇行箇所の直線化は、農地開発のときに地下水を下げるために行ったものであり、茅沼の再蛇行化により、畑地に水が溜まるのではないかと懸念がある。工学的に大丈夫であるのか実地検証等を行い、地域に十分な説明を行うべきである。 • 森林の管理は重要であり、流域管理の柱とすべきである。上流域や湿原周辺の集水域の森林保全や、流域内の急斜面及び農地として使われていないところの森林化を図ったり、流域管理をこまめにする必要がある。また、中流域の河床低下は進行する懸念があるので、中小河川の蛇行化などの対策が必要ではないか。 • 釧路川らしい河川景観を創出することにより、地域の資産や魅力あるものにつなげるという視点があっても良いのではないかと。16項目を取り組むときに、釧路川らしさをどのように具体化し反映させていくかを議論する必要がある。ランドデザインの柱である「流域が一体となった川づくり」に向けて、流域委員会の中では少し踏み込んだ議論も必要ではないか。 • 釧路川の水質については、本流だけでなく、支流についても対応を考えていく必要がある。 • 屈斜路湖ではボートやカヌーなどのレジャー問題が生じているが国土交通省でも流域全体として考えていく必要があるのではないかと。 • カヌーの発着場の中に稚魚に影響を与えるような構造の箇所がある。親水空間を作るときは、川で生活している人たちや利用する人たちの意見を十分反映させるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 左記の意見に配慮し、豊かな生物の生息・生育環境の創出という観点から、検討していきたい。 • 堤防の切り替えを伴う直線化工事は行わない予定である。ただし、流下能力や堤防防護上、支障のある箇所については、河道内の整形などを行うことがある。 • 茅沼の蛇行化については、現地試験調査等を行うとともに、有識者や地域の方と協議等を行いながら進めていきたい。 • 左記の意見に配慮し、関係機関と連携した川づくりについて検討していきたい。河床低下箇所は状況に応じた対策を検討していきたい。 • 左記の意見に配慮し、今後の川づくりや釧路川らしさの具体化について検討していきたい。 • 水質については、左記の意見に配慮し、関係機関と連携して検討していきたい。 • 関係機関と調整をはかり、必要に応じて検討していきたい。 • 親水空間を検討するにあたっては、左記の意見に配慮し、検討していきたい。